



# 三小だより

12月号 令和5年11月30日発行  
横浜市立港南台第三小学校 学校だより  
電話 833-0251  
FAX 833-9204

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kohnandai3/>

## みんなちがって、みんないい

校長 岡部 一郎

いよいよ12月です。最近では、急に気温が下がる日もあり、冬が近づいてきたことを感じています。この時期になると、どの学年も12月16日の「ふれあいコンサート」に向けて、一生懸命に練習に取り組んでいます。16日には、みんな輝いてくれると思いますが、当日に向けて日々努力していることがとても大切だと思っています。当日まで練習がより充実するよう声をかけていきます。ご家庭でも、「ふれあいコンサート」について話題にいただければ幸いです。

さて、毎年書かせていただいておりますが、12月4日～10日は人権週間です。この人権週間は、国連で採択された「世界人権宣言」を契機に、国が関係機関や団体などと協力して、人権啓発活動を展開し人権尊重思想の普及高揚を呼びかけています。横浜市でも「『だれもが』『安心して』『豊かに』生活できる学校をめざして」、「人とのつながりから学び、自分も他の人も大切にできる子どもの育成」という理念で人権教育を推進しています。

本校でも、この理念を進めるよう取り組んでいきます。そして、そのためには「私たち一人ひとりとは多様な存在である」ことを大切にする必要があると考えています。では、この多様性を理解していくために私たちは、どんな意識をもつ必要があるのでしょうか。

私は、時々富士山がデザインされたネクタイをしていることがあります。とても細かくデザインされていて、よく見ないと気付かないのですが、「校長先生、このネクタイ、富士山。」と伝えてくれる子どもがいます。その時には、気付いてくれたことをとてもうれしく思いました。もし逆の立場だったら、私は富士山を単なる模様としかとらえないか、または、ネクタイに意識がいかなかったかもしれません。もちろん、「よく見てごらん。」といえは、みんな気付くと思いますが、この時には、気付いてくれた時のうれしさとともに、「見る」というごく普通のことでも、人それぞれ観点が違うのだということを教えてもらいました。

このことは、子どもたちの「学び」の中で考えていく必要があると思います。一般的に、私たちは様々な事柄を認識したり、理解したりする際に、二つの傾向があると言われていています。その一つは、一度に多くの情報を全体的に大まかに把握し、その部分同士の関係を考えていくやり方（全体から部分へ）です。そして、もう一つは、一つひとつの情報を時間的に順序だてて考えていく方法（部分から順序立てて全体へ）です。例えば、本棚を作るときに、前者は完成した全体像をイメージし、底板や棚板などの構造部分を見てそれらのつながりから作るやり方です。そして、後者は底板、側面の板などのパーツに着目し、マニュアルを見ながら順序を考えて作る方法です。ここで大切なことは、正しいやり方はどちらかということではなく、学び方や考え方も、人によって違いがあり多様であるということです。

すべての人々は、それぞれ社会的な状況や文化的な背景なども含め、みんな違って、みんないい。また学び方や考え方も違います。ネクタイの富士山の模様に気が付いてくれた子どもたちのように、私たちには気付かない物事の見方や考え方、発想があるかもしれません。多様性を尊重することはとても大切なことであり、一人ひとりが努力していくことでもありますが、充実した学びにつなげていくためには、子どもたちの内面にある多様性にも着目し、どのようにしたら、一人ひとりがその子らしさを発揮し、充実した学校生活を送れるかを考えることだと思っています。そして、人権週間だけでなく、日々子どもたち一人ひとりのよいところを生かしながら、『だれもが』『安心して』『豊かに』生活できる学校をめざしていきます。